



ネイチャーセンターだより

2021年10月号

新・いきもの図鑑



写真：左がメス、右がオス

オナガガモ（カモ科）

オナガガモは、北半球北部の広い地域で繁殖し、日本には冬鳥として湖や川、池などに渡来します。根室では、春と秋の渡りの途中に立ち寄ります。風蓮湖は数が多く、春国岱湾では1日に1,000羽以上の群が見られることもめずらしくありません。

オナガガモは、カモの仲間の中ではすらっとした体形をしています。オスは、目の後ろに白い線とフェンシングの剣のような細長い尾が特徴です。この尾羽は真冬までに伸びてきます。メスは全体的に茶褐色で、尾は長くありません。

食べ物は、主に水辺の植物です。採食の方法は様々で、水面に浮いた草をくちばしでこすりながら食べたり、頭から首を水の中に入れて逆立ちをするようにして水底の植物を食べたりします。

【参考文献】

福田道雄. 2012. オナガガモ. Bird Research News Voi.9 No.12. 福田道雄. 1996. 日本動物大百科第3巻鳥類I. 平凡社. 東京.
高野伸二. 2015. フィールドガイド日本の野鳥増補改訂新版. 公益財団法人日本野鳥の会. 東京.

自然学習林のエゾリス

NEWS

9月下旬、自然学習林でふだんはあまり見かけないエゾリスが2回観察されました（表）。エゾリスは、木の実を運んだり、食べたりしていたそうです。

エゾリスは、木の実が結実する時期になると、長い冬を乗り切るために食物をたくわえます（貯食）。そのため、日中もよく活動するようになるのです。貯食の方法は様々で、殻のままのクルミや殻をとったドングリなどを地面に少し穴を掘って点々と埋めたり、木の枝などにはさみこんだりします。自然学習林は、エゾリスの好物のオニグルミやミズナラが生育しており、エゾリスにとっては最適な採食地の1つだと思われます。

まだ秋の真ただ中ですが、早めに準備を進めておくことが肝心のようです。貯食に奮闘するエゾリスを応援したいです。



写真 エゾリス

2017年9月2日自然学習林で撮影

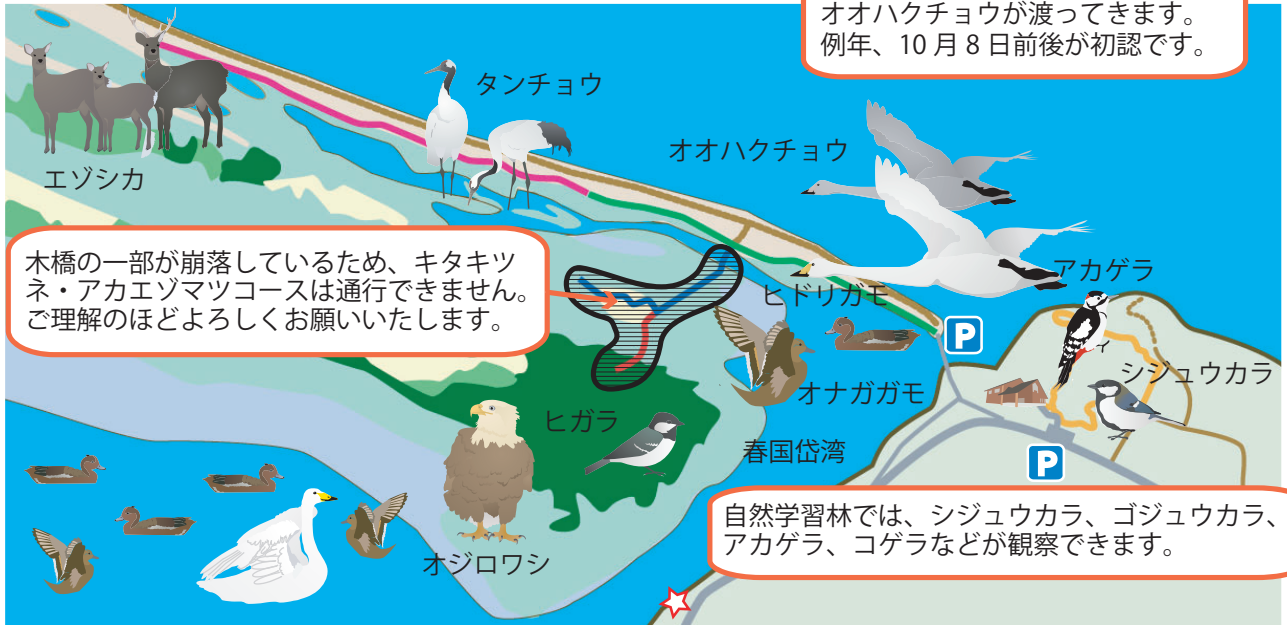
【参考文献】

宝川範久. 1996. エゾリス. 日本動物大百科哺乳類I. 平凡社. 東京.

表. 自然学習林内でのエゾリスの記録

年月日	観察内容	観察者
2021/9/26	1頭が番号杭2番そばで木の実のようなものを口にくわえて運んでいた。	工藤麻衣さん・工藤統史さん
2021/9/28	番号杭23と22の間の地点で、2頭が、ミズナラの木の上で何かを食べていた。	下斗米真梨さん・菊地美美子さん（スノクのメンバー）

見どころMAP



オオハクチョウが渡ってきます。
例年、10月8日前後が初認です。

木橋の一部が崩落しているため、キタキツネ・アカエゾマツコースは通行できません。
ご理解のほどよろしくお願いいたします。

自然学習林では、シジュウカラ、ゴジュウカラ、アカゲラ、コゲラなどが観察できます。

- 観察路(ヒバリコース1.2km、約25分)
- 観察路(ハマナスコース1.4km、約30分)
- 観察路(キタキツネコース0.8km、約20分)
- 観察路(アカエゾマツコース0.5km、約15分)
- 観察路(小鳥の小道1.4km、約30分)
- 作業路(春国岱上は車両進入禁止)
- 根室市春国岱原生野鳥公園ネイチャーセンター(入館無料)
- ★ 東梅野鳥観察舎(東梅ハイド)

<キタキツネ・アカエゾマツコースの補修の予定は、分かりしだいネイチャーセンターだよりやホームページ、Facebookでお知らせします。>
<東梅ハイドからは、対岸の春国岱の森林の鳥や周囲の草原の鳥が観察できます。>

10月の見どころ予報

- 凡例
- ◎ ぜったい見られる (と思う)
 - ちょっと気をつければ見られる
 - + よく気をつければ見られる
 - ・ めったに見られない

オジロワシ	○	樹木の枝や消波ブロックなどに止まっているところが見られる。干潮時には、風蓮湖や根室湾の干潟に降りて、エサを探していることもある。
オオワシ	+	例年、10月下旬頃が初認。11月には、春国岱の森や根室湾の干潟でしばしば見られるようになる。
タンチョウ	○	春国岱周辺の湿地や干潟などで見られる。今年生まれの幼鳥は、頭から首にかけて茶色っぽい。
オオハクチョウ	○	例年は、10月8日前後が初認。最盛期の11月上旬には、風蓮湖・温根沼全体で約1,000羽のオオハクチョウが観察できる。
カモ類	◎	9月中旬頃からカモ類が渡来し、よく見られるようになる。ヒドリガモとオナガガモが最も数が多い。マガモ、ハンビロガモ、コガモなども少数見られる。
春国岱	野鳥(森)	運が良いと、クマゲラの鳴き声が聞けたり、森の上を飛ぶ姿が見られる。
	けもの	エゾシカ、キタキツネが見られる。
	植物	海岸では、ウンラン、ウラギクなどの花が見られるが、例年10月の初めまで。アッケシソウの紅葉は、10月中旬頃まで見られる。
自然学習林	野鳥	ハシトガラ、シジュウカラ、ヒガラ、ゴジュウカラ、キバシリ、キツツキ類(アカゲラ・コゲラ・オオアカゲラ)が見られる。
	けもの	エゾシカ、キタキツネが見られる。稀にエゾリスが見られることもある(9/26、9/28観察)。
	植物	ツタウルシ、ヤマブドウ、シウリザクラなどの紅葉とナナカマド、コウライテンナンショウの赤い実が見られる。
危険生物		エゾイラクサ・ツタウルシには、さわらないようにご注意ください。マダニを防ぐため、虫よけ剤の塗布をおすすめします。

カモ類の渡来とオオハクチョウの渡来日予想

ネイチャーセンターの窓から見える風蓮湖（春国岱湾）の水面に、多くのカモ類の群れが目立つ季節となりました。今年の初認日（シーズン最初に観察した日）は、数多くが渡来しているヒドリガモで9/28、オナガガモで9/11でした。

さて、この日付は例年と比べて早いのか遅いのか。ネイチャーセンターで開館日に記録した初認日の過去5年間の記録を比較してみると、こんな風になりました（表）。

表 春国岱湾と前浜で観察したカモ類・オオハクチョウの初認日
（薄むらさき色の枠内の日は休館日の翌日のため、実際の渡来は1日早かった可能性がある）

	2021年	2016-20年の平均	2020年	2019年	2018年	2017年	2016年
ヒドリガモ	9/28	9/13	8/31	9/19	9/27	9/8	9/15
オナガガモ	9/11	9/6	9/3	9/9	9/2	9/7	9/12
ホオジロガモ		11/4	10/26	11/15	10/28	10/24	11/23
ウミアイサ		10/17	10/11	10/14	10/18	10/21	10/21
オオハクチョウ		10/11	10/11	10/11	10/13	10/13	10/9
オオハクチョウ (含周辺)		10/8	10/11	10/10	10/9	10/8	10/6

年によってばらつきがありますが、平均日を取ると、ヒドリガモもオナガガモもやや遅めだったことがわかります。

ついでに、例年10月に渡来するオオハクチョウと海ガモ類（前浜を含む）の初認日を調べてみたところ、平均日でいうとオオハクチョウ、ウミアイサ、ホオジロガモの順に渡来していました。オオハクチョウの初認平均日は10/11ですが、春国岱湾より先に、春国岱の反対側の第一トウバイ川河口や道の駅スワン44ねむろの北側の水面で初認されることが多く、これも含めると10/8となりました。

さて、今年の実際の初認日は、どうなるでしょうか？



オオハクチョウ
(2020年11月6日 撮影)

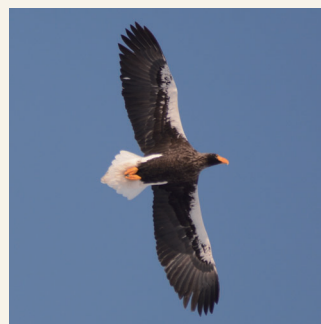
春国岱クイズ

10月下旬になると、オオワシがロシアから根室に帰ってきます。アジアの北東部にしかないオオワシは、大きくて美しいこともあって、海外から訪れるバードウォッチャーの人たちにもとても人気がある鳥です。

オオワシは、英語では Steller's Sea Eagle（ステラーの海ワシ）と呼ばれています。ステラーとは、ドイツ出身でロシアで活躍した18世紀の博物学者、ゲオルク・シュテラーの英語での読み方です。彼は、カムチャツカやアラスカを探検したヴィトウス・ベーリングの探検隊に参加し、当時、ヨーロッパでは知られていなかった様々な生きものを発見して、ロシアに持ちかえったことで知られています。

さてこの、シュテラー（ステラー）さんの名まえは、他の生きものにもつけられているのですが、次のうち、英語名に Steller（ステラー）とついていない生きものはどれでしょうか？

- ① コケワタガモ
- ② トド
- ③ オットセイ



オオワシ
(2021年1月24日 撮影)

春国岱ネイチャーセンターのイベント情報

●行事参加者募集!

◆春国岱ボランティアゆるふわ体験

春国岱ネイチャーセンターのボランティアグループ「スंक」のメンバーと一緒に自然学習林を歩いて、自然の様子を記録したり、観察路の案内表示を修繕したりする管理作業を体験します。一緒に楽しく汗を流しましょう!

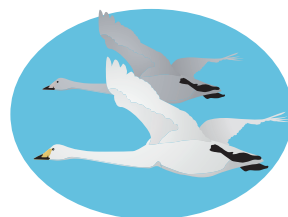
・開催日時: 2021年10月26日(火) 午前10時00分~12時00分(雨天時は、11月30日(火)に順延。)

・集合場所: 根室市春国岱原生野鳥公園ネイチャーセンター

・対象: 春国岱ネイチャーセンターでのボランティア活動に興味のある18歳以上の方

・定員: 20人(先着順、10月24日(日)16時まで)

・持ち物&服装: 野外で活動できる服装・長靴・帽子・飲み物・タオル・マスク



◆風蓮湖・みづとり観察会

春国岱周辺に渡来したオオハクチョウやカモ類などの水鳥を観察します。

・開催日時: 2021年10月31日(日) 午前9時30分~12時00分(雨天時は、11月7日(日)に順延。)

・集合場所: 根室市春国岱原生野鳥公園ネイチャーセンター ・解散場所: 春国岱駐車場

・対象: バードウォッチングに興味のある小学生~大人(17歳以下の方は保護者同伴・または保護者の方に参加申込確認書にご署名いただけること) ・定員: 20人(先着順、10月28日(木)17時まで) ・参加費: 100円(保険代)

・持ち物&服装: 長靴、防寒具上下、手袋、帽子、タオル、マスク、飲み物、筆記用具。お持ちの方は双眼鏡(貸出しあり)

◆行事の申込方法

・電話、メールまたは直接来館により、下記必要事項を根室市春国岱原生野鳥公園ネイチャーセンターへ。

・必要事項: 参加者全員の氏名・連絡先・17歳以下の方は年齢も ・Tel: 0153-25-3047 E-mail: nemu_nc@marimo.or.jp

★新型コロナウイルス感染症の感染防止に十分な対策をした上で実施いたします。新型コロナウイルス感染症等の状況により、中止する場合がありますのであらかじめご了承ください



募集中!

ボランティア「スंक」

春国岱ネイチャーセンターでは、ボランティアグループ「スंक」で活動して下さるメンバーを常時募集しています。「スंक」は、ネイチャーセンター周辺の自然を自らが楽しみ、環境保全について学び行動することを目的としています。月に1回、ミーティングを行い(基本的に最終火曜日)、自然学習林の樹名板を作ったり、イベントを企画・実施したりしています。

熱いながらもゆるい楽しい集まりです。ご興味のある方はネイチャーセンターまでお問合せください。

◆対象: 18歳以上

◆年会費(ボランティア保険料含む): 1,000円

フィールドマナーを守って

自然や生きものが安心して暮らせるように...

- 春国岱の駐車場から奥は、一般車両の乗り入れは法律で禁止されています
- 観察路からはずれないようにしてください
- 動植物の採取や捕獲はしないでください
- ゴミはお持ち帰りください
- 所定の場所での喫煙にご協力ください
- キタキツネやエゾシカ、野鳥など野生動物の生息地です。またマダニも多く生息しています。ペットを持ち込んだり、放したりすることはご遠慮ください



クイズのこたえ ③。英語でコケワタガモは Steller's Eider (ステラーのケワタガモ)、トドは Steller Sea Lion (ステラーアシカ) と呼ばれます。オットセイは Northern Fur Seal (北方の毛皮アザラン) です。出典: 田島木綿子。2021。海獣学者、クジラを解剖する。山と溪谷社。「ゲオルク・シュテラー」~フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

根室市春国岱原生野鳥公園ネイチャーセンター (入館無料)

〒086-0074 北海道根室市東梅 103 番地

TEL. 0153-25-3047 FAX. 0153-25-8570

Eメール. nemu_nc@marimo.or.jp

HP. http://www.marimo.or.jp/~nemu_nc/workn/index.html

Face Book. <https://www.facebook.com/shunkunitai/>

◆休館日: (開館時間 9:00 ~ 16:30)

10月6・13・20・27日 11月4・5・10・17・24・25日

◆団体でご利用の方へ (事前予約制)

自然観察の案内や室内でのレクチャーなどのプログラムをご利用いただけます。



ラムサール条約湿地

風蓮湖・春国岱

2005年11月登録